



あびこ ひろまさ
我孫子 洋昌 議員

子どもひとりひとりを大切に する施策、高齢者が安心して 住み続けられる施策が必要では

町長 町民の要望や各種委員会の意見をもとに
計画を策定し、施策を推進したい

高齢者福祉・子育て施策 と行政計画

質問

少

子高齢化が進む下川町において、高齢者が安心して住み続けられるように、また、子ども一人ひとりを大切にするために、継続的な支援施策が必要です。そこで、福祉や子育てに関する行政計画のあり方について伺います。

町長 本町の高齢化率は2月末で40.1%であり、ここ数年、ほぼ維持しています。また、子育てに喜びを感じることができると地域社会の構築が求められる中、地域保健福祉計画を中心に、各分野で多岐にわたる施策を講じております。行政計画は、町民の皆様の要望や各種委員会の意見をもとに策定し、推進したいと思えます。

再質問

高齢者が人生の最終段階をどう迎えるか、介護・医療、家屋や家財道具、さらにはお墓をどうするかといった課題があると伺っています。また、下川町の

子育て支援策も一定の評価は受けていると思えますが、「誰ひとり取り残されないまち」を目指すのであれば、それぞれの課題について各世代から、また個々から聞き取りを進めて十分な手立てを講じるべきです。

町長

特に医療関係で厳しい事案に直面しています。町立病院の外来患者数が減少したので外科医師を未設置にしなければなりません。また、歯科医院が廃業して住民の皆さんは非常に不便を感じる、といったことがどんどん起きています。子育て環境をしっかりと作っていく上では、社会全体で子どもたちを見守り育てていくという取り組みが今後更に必要になるのではないかと思います。そのようなことを念頭に置きながら計画を立て、政策を立案執行することが不可欠だと考えます。

再質問

子どもの成長という点から、認定こども園には、教育委員会もより深く関わるべきです。

教育長

教育委員会と保健福祉課は、学校経営研究協議会で認定こども園の園長、小中学校の校長、教頭と情報交換を行っています。

再質問

子どもに関する情報共有をしていることを告知して、保護者の理解を得て施策を推進すべきです。

町職員の人材獲得・育成

質問

多様な町民ニーズや社会情勢の変化に迅速に対応していくためには、町職員の資質向上が継続的に必要です。また、人材獲得競争に勝ち残るための長期的な戦略が必要になると考えます。

下川町はどういった考えで取り組んできたのか。また、今後も活かせる戦略や人材の育成ノウハウなどがありますか。

町長

町では循環型森林経営や、SDGsを基本とした持続可能な地域社会実現のため、各種計画の策定や様々な事業に取り組んで

ました。このような取り組みが、本町で採用を希望される多くの方の志望動機となつていきます。

人材育成については、職員研修計画に基づき、職員の年次に応じた各種研修のほか、町の独自研修、職員の自主参加研修、国の機関などへの派遣研修を実施しています。今後も研修の時期や内容を適切に判断して、人材育成が図られるよう進めたいと思えます。

再質問

職員が長く勤務しているかどうかも、これからの人材獲得のうえで大きな要素になるのではないのでしょうか。

町長

人口減少の中でも多様な社会、世代バランスが良い地域づくり、共生型社会で持続可能なまちづくりが下川町の今後めざす大きな理念ではないかと思えます。この後の方々、本町の職員の皆さんにもそういう意識で、まちづくりや政策形成をしていただきたいと思います。